

公・私立の枠を超えて小・中の教員が集い、指導力を高め合う授業研修会を実施

愛知県豊明市教育委員会・私立星城中学校

2017年6月、愛知県豊明市内の公・私立の小・中学校教員が一堂に会する授業研修会が行われた。これは、同市教育委員会と私立星城中学校が、地域全体の教育力の向上を図り、新学習指導要領への対応や小中連携などを強化しようと呼びかけて実現したものだ。研修会の様子をレポートする。

研究授業の様子

ICTを活用した英語と理科の授業を公開

愛知県豊明市と市内の私立・名古屋石田学園（星城中学校・高校）は、包括連携協定を結び、教育・スポーツ文化活動などへの相互支援を行っている。その一環として、星城中学校が推進中のICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業に関して指導方法等を他校と共有しようと、市内の公立中学校との合同授業研修会（以下、本研修会）を企画した。また、新学習指導要領での小学5・6年生の英語教科化を視野に入れた小中連携の強化を図るため、市内の公立小学校にも参加を呼びかけたところ、研修会当日は小学校5校、中学校3校から、管理職を含めた教員15人が同校に集まった。

本研修会は、同校の教員による研究授業と、その授業についての研究協議という構成だ。研究授業は1年生の英語科、2年生の理科で行われ、生徒一人ひとりがタブレットを持って効果的に活用しながら進められた。

英語の授業は、自己紹介を通して一般動詞と疑問詞への理解を深めることをねらいとして行われた。まず、タブレットに入っている「Classi」*を用いて自己紹介の原稿を作成し、それを読み合うペアワークを行い、そ

愛知県豊明市プロフィール

◎愛知県中央部に位置する。名古屋市東南部に隣接し、ベッドタウンとして発展した。織田信長が今川義元を破った桶狭間古戦場がある。

人口 約7万人 面積 23.22km²
 公立学校数 小学校9校、中学校3校
 児童生徒数 約5,300人
 電話 0562-92-1111 (代)
 URL <http://www.city.toyoake.lg.jp/index.html>

星城中学校プロフィール

◎1993（平成5）年に開校。隣接する星城高校との併設型中高一貫教育を行う。高校は、文部科学省「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」のアソシエイト校に指定されている。

校長 水野謙二先生
 生徒数 74人
 学級数 3学級
 電話 0562-97-3121
 URL <http://www.seijoh-jr.com/>

の様子を互いのタブレットで撮影する（写真1）。次に、その動画を見て、自身の原稿を読む速さや声の大きさなどを確認しながら、個人ワークでの練習を繰り返す。授業の後半には、1人ずつ教室の前に出て英語で自己紹介を行ったが、その際には、全員が原稿を見ずに話し、ほかの生徒からの質問にも臨機応変に答えていた。

理科の授業では、まず、教員が砂糖に硫酸をかける実験を行ったが、この時に生徒はタブレットの録画機

能を用いて化学反応の様子を撮影した。生徒は、どのような化学反応が生じたのかをグループで話し合いながら考察し、化学反応式にまとめていく。さらに、各自が撮影した動画を見直し、考えを深める様子も見られた（写真2）。授業中に数回設けられた中間発表では、教員が生徒の意見を聞きながら、考察のポイントを整理。生徒が書いた化学反応式はタブレットで共有され、最終的には全員が実験での化学反応の構造を理解



▶写真2 生徒はタブレットを持って教室を自由に歩き、あちらこちらでグループをつくって話し合った。

◀写真1 ペアワークでは、相手の自己紹介の内容について質問も合った。



* 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社であるClassi株式会社が提供する、学校教育でのICT活用を総合的に支援するサービス。

できた。最後に生徒一人ひとりが化学反応式をタブレットに書き、Classiで教員に提出して授業は終了した。

研究協議の内容

教員が互いに授業観を示し、生徒の学びの深化を目指す

研究協議（写真3）では、研究授業を担当した英語科の澤田満先生と理科の近藤英章先生から、授業の工夫点について説明があった。澤田先生はペアワークでの学び合いを軸にした点、近藤先生は生徒の興味・関心を引きつけようと、授業の冒頭で実験を行った点を挙げた。また、両先生ともに、生徒の学びを深めるために、タブレットの録画機能を有効に活用していることを強調した。

続く参観者との質疑応答では、最初に英語の授業について、小学校教員から「生徒の自己紹介に文法的な



写真3 研究協議は50分間行われ、そのうち約30分間が質疑応答に充てられた。小・中学校の各教員から質問が次々に出されていた。

誤りがあった際は、その生徒に指導するだけでなく、何が間違っているのかをクラス全体で共有すべきだったのではないか」という質問があった。これに対して、澤田先生は、「普段は共有、解説しているが、今日は授業の進行に気を取られてしまった。重要なお指摘なので、今後はより意識していきたい」と答えた。また、理科の授業については、中学校教員からの「ICT活用により、授業はどのように変わったと思うか」という

質問を受け、近藤先生は、自身が感じている最大の変化として、「話し合いが活性化し、生徒が一層意欲的になった」という生徒の変容を挙げた。小学校教員からの「定着度に差が見られる場合、教員が教えた方がよいのではないか」という質問には、「生徒自身での気づきを重視し、学び合いをなるべく多くしている」と近藤先生自身の考えを述べた。

最後に、同市教育委員会学校支援室の下出修史室長が研究授業を講評し、「授業の終わりにクラス全体での振り返りの時間を設けると、成果や課題が共有され、より効果的な主体的・対話的で深い学びが実現するだろう」というアドバイスを述べた。

公・私立の枠を超えて教員が交流する研修会は、広い視野で他校と成果や課題を共有し、授業改善を進める原動力となることが期待される。今後の進展を注視していきたい。

授業研修会の今後に向けて

教育委員会との連携を強化し、公・私立一丸となった授業改善の推進を目指す

本研修会は、包括連携協定の下、本校の授業改善の取り組みが他校の参考になればと、教育委員会の指導を仰ぎながら、市内の公立中学校と企画しました。教育委員会からは公立小・中学校に書面で告知してもらおう一方、安田英和星城高校校長とともに各校を訪問して、参加を呼びかけました。研究協議では、研究授業に対して、他校の先生方が「自分ならばどうするか」を語る場面も見られ、本校内で行う研修会よりも踏み込んだ議論になり、得るところが多くありました。また、英語の教科化に向けた小学校の先生方の意気込みもよく伝わり、中学校が小学校との連携を進める際の参考になったと思います。

今後は、小学校英語の教科化により、中学校入学時の



私立・名古屋石田学園星城高校副校長
星城中学校校長

水野謙二 みずの・けんじ

愛知県立岡崎高校進路指導主事、同安城南高校教頭、同御津高校校長、同西尾高校校長等を経て、現職。

生徒の英語力も変わっていくでしょう。中学校では、小学校での学習内容をよく知り、英語力をさらに伸ばせるように工夫しなければなりません。中学校同士の意見交換も一層重要になっていくと思います。そのためにも、公・私立を超えた小・中学校教員の交流は、今後も継続していきたいと考えています。本研修会は各校持ち回り実施も1つの方法ですし、公立の合同研修会に本校の教員が出席するという方法もあるでしょう。先生方が取り組みやすい形になるよう、検討を重ねていきます。

子どもの学力の育成は、すべての学校の目標です。公・私立が一丸となって取り組めるよう、教育委員会との連携をさらに密にしていきたいと考えています。